

事例2 小学校のOJT実践事例

校内自主サークルを立ち上げ、若手教員と共に学び、成長する

【20年目教員として】

本校の若手教員は、学級担任として日々熱心に指導に取り組んでいる。しかし、経験が浅いことから、どうしても子どもたちの指導に悩む場面も多い。また、全ての学年が単学級の小規模校のため、学年内で先輩教員から学ぶことができず、悩みを相談できないまま多忙な日々を送っている。

そこで、教職20年目研修の「校内実践研修」の内容を管理職と相談し、校内に自主サークルを立ち上げて若手教員中心の学習会を計画した。校内に教員の学びの場を設定し、若手教員の成長に関わるだけでなく、ベテラン教員も共に成長していくことが目的である。

〈取組の内容〉

○「スキルアップ学習会」の開催

学級担任としての悩みを解決するための学習会を、毎週開催した。学級の現状を話し合ったり、問題についてみんなで解決策を考えたり、学習会通信を発行して参考となる資料を共有したりした。

時には、管理職や養護教諭を講師に招き、アドバイスをもらった。

- ・日時：毎週金曜日の放課後 30分間限定
- ・場所：職員室の談話コーナー
- ・対象：初任者、2年目、5年目の教員 ※他の教員も参加自由
- ・話題：学級経営、教材研究、児童指導などの担任としての悩み

○ミニ授業参観の実施

お互いの授業力向上のために、授業を参観し合った。短時間ならば、参観しやすいため、10分～15分程度のミニ授業参観とした。こうすることで、若手教員が都合のよいときにいつでも参観することができた。参観後は、「スキルアップ学習会」で意見交換を行い、学んだことを各自の授業に生かすようにした。

これが成功の鍵！

⑤得意分野や指導力のある教員から学ぶ場をつくる

初任者が「一年後に一人前の担任になる」ことを目標に、学ぶ機会をつくりました。先輩教員が一方的にアドバイスを伝えるよりも、若手教員の悩みや考えを受け止めながら一緒に解決していくことを意識しました。

③教員同士が交流しやすい場面をつくる

学習会も授業参観も短時間で行い、日常の校務に負担なく参加できるようにしました。

【初任者の声】

学習会に参加すると、悩みが解消されたり、新たなヒントが得られたりするので、毎週金曜日が楽しみでした。ミニ授業参観は、先輩教員の授業から学べる貴重な機会でした。私の授業も見られるので緊張しますが、アドバイスをもらえてうれしかったです。

【20年目教員の声】

私が若い頃、先輩教員からたくさん声を掛けてもらって成長できたことを覚えています。若い教員が増えてきたので、私がこの学校でできることを考えて、無理なく、一緒に成長できる方法を考えました。私も先輩教員としての自覚が高まりました。



学習会通信の発行

〈取組の成果〉

- ・先輩教員の経験や指導技術を伝えることで、若手教員の学級経営力や授業力が向上した。
- ・学習会を通して、若手教員のスキルアップが図れただけでなく、ベテラン教員も自分自身の指導について振り返りながら、さらに成長するための学び直しができた。
- ・学習会に若手教員以外の教員も参加するようになり、学校全体で学ぶ意識が芽生えた。